



白萩

学校だより「しらはぎ」

令和4年 12月号

あきる野市立増戸中学校

編集：副校長 宮下 茂樹

想像する力

校長 木下 美彦

「あきらめるな。動いていけ！いま助けるから。光がみえるだろう？そこまではっていくんだ」真っ暗な中で左肩をぐいっとつかまれ、男の人の声がしました。

広島に原爆が投下された直後、建物の下敷きになった13歳の少女は様々な体験を重ね、2017年ノーベル平和賞の授賞式でスピーチを行いました。この年の受賞は、ICAN（アイカン）「核兵器廃絶国際キャンペーン」でした。少女はサーロー節子さん。核兵器の恐ろしさを訴える活動をしている彼女の原動力は、あの時の言葉でした。スピーチの内容を関係書籍から学びました。

12月は人権週間やノーベル賞の授賞式など、平和や人権について考える機会があります。学校も言葉の力を大切にして安心して過ごせる環境作りに取り組んでいます。学校生活の日常にも人間関係を壊してしまうことが潜んでいるかもしれません。より良い人間関係を築くために他者の立場を想像し、思いやる言葉を大事に取り組むことを忘れないようにしたいと思います。

新型コロナウイルスの感染の広がりが心配されましたが、11月18日から30日までを学校公開期間といたしました。保護者の皆様に生徒の日常をご覧いただきました。生徒会活動としてあいさつ運動を展開するなど、生徒と共に努めています。11月20日（日）に、あきる野市総合防災訓練が実施されました。以前より小・中学生が参加し、地域活動への貢献について考える行事でもあります。感染を配慮した関係諸機関との連携、防災意識を確認するよい機会となりました。ボランティア部が参加できたことも地域への貢献の一つでした。小・中学校で連携した活動と同時に地域との関わりを深める活動として、今後も推進してまいります。

現在、三年生は各自の進路の方向が見え、実力を自分のものにする時です。二年生はスキー移動教室に向けての取組を進め、一年生は福祉や職業についての学習、校外学習への取組などを実行しています。12月12日からは、スマートフォンによる欠席連絡もできるようになりました。電話連絡と併用してご活用ください。

年末、冬季休業日と忙しい時期ですが、光に向かってはっていけというサーロー節子さんの言葉のように、増戸中生それぞれは課題に向かって着実に取り組みたいと思います。



あいさつ運動



あきる野市総合防災訓練にて



社会人の話を聞く会



スキー移動教室に向けて